



六孫王原古墳

I'Museum
六孫王原古墳
六孫王原古墳は、縄文古墳群を構成する最終段階の首長墓
と見られています。
全長45.4メートルの横土層に、東西3メートル、南北
1.5メートルの方形の墓室をめぐらし、墓室の中央から
南に開口する竈形石室の切石積構造物が認められて、
昭和45年の発掘調査では、石室からは銅鏡と漆器
類、土器、土師器、土師器の破片から、須賀川古墳
などが出土しています。これらの出土品類の分析によっ
て、古墳の築造されたものと推定されています。
縄文古墳群は、古墳時代前期の4世紀から、古墳時代前期
にかけて古墳が連続的に造られた。畿内東部最大級の古墳群で
上海土層とその前身墓の基礎と考えられています。
六孫王原古墳は、こうした縄文古墳群のなかでも最終段階に属
します。関東地方では終末期に首長墓が前方後円墳から前方
後円墳へ移行する過程で、六孫王原古墳は前方後円墳を築造して
きた終末期の前方後円墳の中で最大規模である点において、地
域の歴史を研究する上で重要な古墳です。
令和5年3月 奈良県教育委員会

フィールドマップ・古墳コース
六孫王原古墳
2024/4/14



フィールドマップ・古墳コース
二子塚古墳
2024/4/14



フィールドマップ・古墳コース

御社2号古墳

2024/4/14



フィールドマップ・古墳コース

姉崎神社境内

2024/4/14



フィールドマップ・古墳コース

鶴窪古墳

2024/4/14